

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：島井 潔 所属：厚木市立愛甲小学校

課題名：身近な自然に働きかけ、ふれ合うことのできる子の育成

1. 課題の主旨

本校は、愛甲石田駅に近く国道246号線、東名高速道路厚木インターチェンジ、小田原厚木高速道路も近い、という交通環境に恵まれた地域である。駅周辺には商業施設や住宅街が広がってはいるが、学校周辺は、すぐ近く玉川の流れがあり、梨畑や水田が広がるという自然に恵まれた環境の中にある。

しかしながら、サッカーやソフトボール等の競技で体を動かす児童は多いが、身近な自然環境を生かして遊ぶということはあまり多くないというのが現状である。身近に豊かな自然があるにもかかわらず、自然に接してそこから経験を積んでいくと言ふことはあまりないと言えよう。そこで、自然に接する機会を多くし、体験を通して、自然をより身近な存在としてとらえていけるようにしたいと考えた。

本校の隣接する地域には、東京農業大学がある。子どもたちにとっては、大学の収穫祭に行ったり、公民館行事にも大学のネイチャーズクラブの方が来てくださって交流したりと身近な存在でもある。地域の教育力である大学と連携することによって、豊かな知識や資料を生かして子どもたちが自然とふれあう楽しさを味わわせたいと考え、

「身近な自然に働きかけ、ふれ合うことのできる子の育成」

というテーマを設定した。

子どもたちの中には、昆虫などに興味があり、自分で採取したり飼ったりという活動の中で、知識を増やしていく子どももいる。苦手に思っている子どもも、多くの生き物に実際触れる体験を通して、親近感がわいたり興味関心が育ってきたりする。また、自分で採取した動植物には愛着が湧いてくる。継続して飼育・観察したりすることによって生命を慈しむ心も育ってくると考えられる。本を読むことで、知識として知っている児童は多いが、実際の動植物を自分の目で確かめることによって、科学的な物の見方や考え方が育ってくることも期待できる。

以上から、

- ・実際に自然とふれあう体験を多く持つ
- ・つかまえ方や飼育の仕方を知る。
- ・自分の目でたしかめる。

の3つの活動を重視し、身近にある自然とのふれあいを大切にすることによって、より主体的に活動し、科学的な見方や考え方が育つよう指導していきたい。

2. 活動状況

地域の教育施設である、東京農業大学に協力を依頼し授業を行ってきた。各学年からアンケートを取り、動植物観察の計画をとりまとめた後、東京農業大学に日時や実施したい授業の内容を連絡し、講師依頼を行った。大学から講師の紹介が入ると、各学年ごとに事前打ち合わせを持ち、授業を行った。

別紙参照

3. 結果

外部からの講師をお願いすることにより、学校周辺で動植物を観察する際にも、その場で疑問に答えてもらったり、詳しく教えてもらったりすることが出来た。学校では用意できない資料を基にした説明もあり、子ども達も集中して取り組み、自然に親しみながら活動することが出来た。

別紙参照

4. 今後の課題と発展

1年生から6年生まで、児童が実際に見つけたり、手で触れたり、捕ったり、育てたりする活動を多く取り込む学習を意図した。外部の講師を依頼して直接体験学習を取り入れてきたが、教科書や資料等の教材だけでなく、日頃行わないような体験や、実物に直接触れることによって、児童の興味は格段に高まってきたと言える。昆虫や魚が苦手だと言っていた児童も、最初はおそろおそろふれているような状況であったが、自分で採集し観察していく内に「どうすればとれるの?」「どんな飼い方をすればいい?」「模様や色がおもしろいね。」等と親しみを感じるように変化してきている。また、いる場所を探す際にも、最初はあたりを手当たり次第探っていた児童も、生物の習性を考え採集しようとする姿が見られるようになってきている。

外部から講師を依頼することで、専門的な技能や知識、資料等を期待していたわけだが、どの学年の子どもたちも講師の方のわかりやすい説明に耳を傾け、興味深く話を聞くことができた。初めて対面して行う授業はなれない部分もあると思うが、子どもたちは、臆することなく接したり話を聞いたりすることができた。児童の疑問にも即座に対応して頂き、興味関心をさらに引き出してくださった。

貴重な時間を割いて来てくださることや、時間が有効に使えるように、事前打ち合わせを行うことが必要になってくる。こちらの授業を行う意図を的確に伝えていかなければならない。また、農大には多くの学年がお世話になってきたわけだが、単発で終わらせるのではなく、年間を通して季節ごとの変化が分かるように交流を計画していけたら、さらに児童の科学的な物の見方や考え方が育っていくのではないかと考えている。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

